

さんりんしゃ

Nisikie kindergarten

phone 63-2038

fax 63-2034



いも掘りしたり、野菜を植え付けたり、時には畑にいる虫に興味・関心を寄せながら体験活動を楽しむ子どもたちです。

子どもたちに遊びや原体験を通して、「身の回りが見える目」を育てていきたいと考えます。（心で見ると、想像を交えて見ることが表現する力になっていくと期待するところです。

原体験は心をゆさぶる

感じたことを素直に表現する。皆さん！美味しいものを食べたとき、なんと言いますか？ ああ、おいしい・・・。つまり、人間というのは、美味しいものを食べたときは「ああ美味しい」美しいものを見たときは、「ああ、きれい」と言う。感嘆する言葉というのは、ほんのひと言です。特に、子どもは素直に表現するのです。いも掘りをすると、「やったあ」「うわあ、大きい」などと、指先の感触を確かめながら（あるかなあ？）土を掘り進める。やがて、感触から視覚へ「あった！でかい！」こんな体験は、日常の遊びの中ではめったにない。また、子どもたちのすばらしいところは、出だしをへんに飾ろうとせず、最初に思いついた事柄を素直に表現できることです。だから、大人の私たちは子どもの思いを新鮮に受け入れることができるのだと思います。広辞苑には「原体験とは、人の思想形成に大きな影響を及ぼす幼少期の体験」とあります。直接体験の大切さや教育的意義を認識しながら、子どもたちの「学びの芽」を育む保育の創造を目指していきたいと思っています。



本物と直接体験の大切さ

秋の一日遠足で、平川動物公園へ行ってきました。動物を見たということではなくて、子どもたちは本物の動物を観たのだと思います。「ものごとに観見の差あり」という言葉があります。「観」とは対局を感じる。つまり、大きなところからものごとを見る、あるいは、人の心を観察する。「見」というのは、細かい部分、小局を見ること。同じ見でも違います。また、見ると感じるでも違いますが、感じるというのは、「観」に通じます。例えば山の頂から雲海を見たとします。それを、「見」で見たのと、「観」で見たのとは、心に映った感じは違います。誰が見ても同じように見えるのでは、自分が見たことにはなりません。子どもたちが絵を描いたとき、同じ物でも見え方や感じ方が違うため、色づかいも違います。

子どもたちの発達、子どもが自らの経験をもとにして、周囲の環境に働きかけ、環境との相互作用を通じ、豊かな心情、意欲、態度を身につけて、新たな能力を獲得する過程が幼稚園の遊びであり体験活動であると思います。子どもたちは身近な人や自然との関わりの中で、主体的に学び、活動し、様々な知識や知恵を習得しながら、身体的発達や情緒的発達、知的発達、そして社会性などが総合的に発達していくのです。この頃の子どもたちに必要な体験活動であり遊びなのです。その一つが園行事なのです。

いま、錦江幼稚園で取り組んでいる「学びの芽」「自分で考え自分で決める」「環境構成」なんです。子どもひとりひとり異なる資質や特性をもっていて、その成長には個人差があるのです。子どもの「やりたいことがない」理由の一つに、「知らない」ことがあります。こんな時は、子どもの経験値を上げてあげることが大事です。選択肢は「具体的」で「すぐ結果が出るもの」がいいですね。このとき、子どもの意見に耳を傾けることが大事です。親が選んでほしいものを、子どもが選ばないときはがっかりしますよね。でもそこはグッとこらえて、笑顔です。それが子どもの自分で決めて行動する力を応援になります。

